

令和5年度 大阪薫英女学院中学校高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「敬・信・愛」を建学の精神とする本校は、「人との関わりの中で、自分らしく輝く女性を育てる」ことを目標に掲げ、世界で活躍するとともに生涯にわたって幸せに充実した人生を送ることのできる人間の育成をめざしています。

自らの人生を切り拓き、いかなる苦難にも負けることなく「たくましく生きていく」ためには、「豊かな人間性」とともに「豊かな学力」が不可欠であることから、これら二つを一体のものとして捉え、よき集団の中で「豊かな人間性（人と関わる力）」を育むとともに、互いに励まし合い競い合って「学力の向上」を図ります。

薫英教育で、生徒一人ひとりの価値ある未来を創造します。

1

行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う

2

校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う

3

自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

2 中期的目標

- 1

行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う

(1)ともに競い合い、励ましあって向上する集団の育成に努めます。

学校行事に真剣に取り組むことで、みんなでやり遂げた達成感を味わうとともに、互いの存在に気づき尊重する豊かな心を育みます。また、行事への取り組みを通してクラスへの帰属意識を養い、相互に良い刺激を与え合う集団づくりをめざします。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学校行事全般に関する項目」について、令和8（2026）年度までに肯定的回答75%以上をめざします。

(2)規範意識と豊かな心を育む

基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めます。また、生徒会活動・部活動の活性化を図り豊かな心を育みます。

＊基本的生活習慣の象徴として、遅刻回数を令和8（2026）年度までに 2,000 回未満にすることをめざします。

＊学校評価アンケートの「人権を大切にする心や、社会のルールを守る態度を育てている。」令和8（2026）年度までに肯定的回答75%以上をめざします。

＊学校評価アンケートの「生徒会活動に関する項目」を令和8（2026）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

＊学校評価アンケートの「クラブ活動の活性化に関する項目」を令和8（2026）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(3)安心・安全な学校づくり

いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。また、そのための方策の一環として、保護者との連携の強化に努めます。

＊生徒・保護者向け学校評価の「人権に配慮した指導」に関する項目に対する肯定的回答のさらなる向上に努めます。

＊生徒・保護者向け学校評価の「家庭連絡や意思疎通、信頼感」の項目に対する肯定的回答を令和8（2026）年度までに80%以上をめざします。

。
- 2

校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う

(1)留学の充実

姉妹校との連携を深め、安心安全な留学を基本とする「長期留学」のさらなる充実に努める。現地アドバイザーとの連絡を密に、生徒の状況把握に努め、留学の円滑な実施に向けて努力します。重大事故ゼロはもとより、姉妹校との連携を引き続き促進し、プログラムのさらなる質的向上を図ります。

＊長期留学中の重大事故を、0にします。

＊留学説明会や保護者交流会を定期的実施し、安心感のある留学生活に勤めます。

(2)海外研修の充実

単なる観光ではなく体験を重視したプログラムを実施し、現地において異文化理解や国際交流が深められるよう努めます。また、これまで実施してきたニュージーランド5週間の短期留学やイギリス・カナダへの2週間語学研修、海外修学旅行のさらなる充実に努めます。

＊参加生徒へのアンケートでの満足度を、令和8（2026）年度まで90%以上を維持し、さらに向上させます。

(3)「実用英語技能検定(英検)」の取り組み

全校を挙げて英検に取り組み、中学卒業時で準2級以上、高校卒業時で普通科は2級以上、国際科は準1級以上の取得を目標とします。

＊それぞれの取得率を、令和8（2026）年度までに準2級70%、2級40%、準1級45%以上とします。
- 3

自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

(1)授業の充実

公開授業、研究授業を定期的実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」に努めるとともに、さらなる授業改善に取り組みます。

＊生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」について、令和8（2026）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(2)学習意欲の喚起

「一人で勉強しない」を合い言葉に、友人とともに学習に取り組むことで、学力のさらなる向上を図ります。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学習活動を通じた学力向上に関する項目」について、令和8（2026）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(3)夢を実現する進路指導

生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるように努めます。

＊進路相談・進路ガイダンスの実施により生徒の進路実現を支援します。

＊生徒向け学校評価アンケートの「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答を、令和8（2026）年度までに75%以上をめざします。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析
【総括】 (生徒アンケートより) 「授業では、自分の考えを発表したり、まとめたりする機会がある」「学習に対する（通知表に示される）評価は、適切で納得できる。」「文化祭をはじめとする学校行事は充実している。」「教職員は、授業や学校行事をはじめとした教育活動に熱心に取り組んでいる。」以上4項目についての肯定評価は8割を超え、生徒にとって学校生活への満足度、それに対する教員の指導やかかわりに対する納得度が高いことが読み取れる。 一方で、「心身の健康について気軽に相談できる環境（保健室や教育相談）が整っている。」「冷やかしやかからかい、悪口や嫌なこと（SNS等を含む）を未然防止する教育が行われている」という項目については、肯定回答が低かった。プライベートな内容を含む相談については、生徒が抱えてしまっている状況となっており、また、実際に被害加害といった状況ではない未然防止といった内容について人権講演会や道徳、特別活動の時間を活用して生徒に伝えてはいるものの自分事としてとらえられていない状況がある。 (保護者アンケートより) 生徒の肯定回答8割を超えた項目に加え、「子どもは、学校生活に満足している。」(中 87.0% 高 79.4%)「子どもを入学させてよかった。」(中 89.9% 高 85.6%)という学校満足度に関する項目でも高評価であった。また、高校については「BLENDなどを通じて家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っており、信頼感がある。」についても肯定回答が8割を超え、学校に信頼を寄せていただいていることが推察できた。 しかし、アンケートの実施方法を BLEND に変更したことで、回収率が、残念ながら 66.3%と低かった。保護者のみなさんにとって、慣れない方法や多忙な時期の実施であったことが影響したと思われるので、アンケートの掲出、回答方法の周知、実施時期についても検討したい。 また、行事を除く生徒の学校生活、PTA 活動についての質問項目には「わからない」という回答が一定数見られたことから、教育活動の発信の在り方について一考が必要である。 (教職員アンケートより) ・「学校運営」・「組織力」・「次世代リーダーの育成」などでは、肯定回答が低くなっている。生徒・保護者の高い満足度は、日ごろの教職員の努力によって支えられている。教職員の多忙感を払拭することは難しいが、組織としてのチームワークの強化、若手教員が問題意識や悩みを気軽に相談し合えるような時間と余裕を確保するように努めていきたい。 【授業、学力等】 ・生徒が感じる授業の分かりやすさや保護者が感じる子供の授業満足度はおおむね満足と思われる7割を超えました。 ・「講習や補習、放課後自習室」についても、肯定回答は生徒・保護者共に7割を超えおおむね満足と思われる結果でした。 ・「学習評価が適切で納得できる」の肯定回答が生徒、保護者ともに8割を超えており、教員が行う評価の妥当性、信頼性について十分満足されていると判断できました。 【進路指導等】 ・「教職員は、希望進路の実現に向けて親身になってくれる。」は、肯定回答が7割で、大学進学ゼミ・Jトレーニング・長期休業中の講習といった学習支援は、生徒一人ひとりの進路実現にベストな環境となっている。 ・「年内入試」の人気の高まる中、成績上位層には積極的に一般入試で国公立や難関私立大学をめざす「戦う受験生」となってほしい。 【生徒指導等】 ・「教職員は、様々な悩みや疑問等について、気軽に相談にのってくれる。」の肯定回答が7割を超える一方で「心身の健康について気軽に相談できる環境（保健室や教育相談）が整っている。」の肯定回答は6割に達していない。多感な時期の生徒にとって体や心といったプライバシーに関わる内容を誰かに相談することは、ハードルが高いと感じるが、教職員一人ひとりがアンテナを高くし、生徒の変化を見逃すことなく、信頼関係に根ざした対応に努めていく。 【その他、学校運営等】 ・施設・設備については、築年数などの関係から高い評価ではありませんでした。生徒の安全確保を最優先に定期的な点検などにより満足いただける学習環境の整備に努めてまいります。
学校関係者からのご意見
少子化が進む中、保護者が学校に対する期待も多種多様ですが、そんな保護者が安心して預けてくださる学校となるよう、学校満足度に対する高評価を継続してほしい。 また、日々先生や生徒たちは頑張っていて、満足感も得られていることが外部に伝わっていないように感じる。入学を考えている生徒さんたちにうまくアピールするべき。 授業や学力については、保護者の満足度の高さを今後も継続するべき。学習面、特に海外留学など、今のニーズに合っているので結果が出ている。 生徒指導面については、生徒にとってもストレスの多い世の中になりました。生徒全員が悩みやストレスを話せばいいのですが、中には抱え込む生徒もいます。教職員が一人ひとりに対応できるように頑張ってもらいたいです。 基本的な生活習慣の確立の指標にしている「遅刻総数」は疾病との関わりで難しいのであれば、何か別のものを考える必要があるのではないか。 強豪クラブの活躍は、生徒も指導されている先生方ともに素晴らしいです。それ以外のクラブも活発に活動してほしいです。 施設設備については、築年数がたっているがそれなりに工夫して美しく保つことはできるのではないか。努力が必要と感じる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
1 行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う	(1)ともに競い合い励ましあって向上する集団の育成に努める。	ア. 学校行事に真剣に取り組み、互いの存在に気づき尊重する「豊かな心」を育む。また、行事準備期間を重視しさまざまな葛藤を経てクラスへの帰属意識を養い、ともに支えあう集団を育成する。	ア. 学校評価アンケートにおいて、行事に対する肯定的回答75%以上	ア. 「行事の充実」について肯定的な回答 中学保護者94.2%高校保護者79.1%生徒88.1%と指標をクリアできた。(◎) 個人個人についても振り返りなどを活用し、豊かな心を育みます。
	(2)規範意識と豊かな心を育む	ア. 基本的生活習慣の確立のため、遅刻者を減少させる。	ア. 遅刻総数2,000回未満とする	ア. 遅刻総数は指標としている2,000回未満を大きく上回る3,567回であった。(△) 規則正しい生活をしていても疾病のため朝登校しにくくなっている生徒もいる中で、この指標が正しいかも含め検討が必要。
		イ. 規範意識の醸成	イ. 学校評価アンケートで75%以上	イ. 「社会のルールを守る態度を育てようとしている」について肯定的な回答は 中学保護者79.7%高校保護者72.8%生徒76.2%であった。(△)月例の風紀検査や必要な生徒への追指導、日々の生活指導を粘り強く行い規範意識の醸成に努める。
		ウ. 生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援する。	ウ. 学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上	ウ. 「生徒会活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」に対する肯定的回答が中学保護者52.2%高校保護者54.1%生徒57.1%であった。(△) 肯定回答が低かった原因がどこにあるのかを検証し、すべての生徒が主体的にかかわれる生徒会活動としていく必要がある。
		エ. クラブ活動の活性化 放課後の活動の中で、クラス、学年、ブロックを超えた生徒間の関わりを持たせる。	エ. 学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上。 外部競技会への参加、交流を奨励する。	エ. 「クラブ活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」の肯定的回答が中学保護者55.1%高校保護者50.9%生徒47.6%であった。(△) 生徒会活動と同様に、肯定回答が低かった原因がどこにあるのかを検証し、すべての生徒にとって快適なクラブ活動としていく必要がある。 陸上部：全国高等学校駅伝競走大会4位入賞 高校バスケットボール部：インターハイ第3位 ソフトテニス部：近畿高校選抜大会1ペア出場。囲碁：全国高等学校囲碁選抜大会9路盤優勝 これらの成果を他のクラブの活動にも波及させていく。(◎)
	(3)安心・安全な学校づくり	ア. 一人一人を大切にするクラス（居心地がいいと感じるクラス）を生徒と共に協力して作る。本校「いじめ防止基本方針」に基づきいじめ事象の未然防止に努める。	ア. 学校評価アンケートで肯定的回答のさらなる向上をめざす。	ア. 「人権を尊重した指導」に対する肯定的回答は、中学保護者78.3%高校保護者76.9%生徒78.6%で昨年度よりポイントを下げた。(△) 機会をとらえて実施するQ-Uなども活用し、SNS上の誹謗中傷なども含め、いじめ事象の未然防止に努める。
		イ. BLENDなどを利用し、保護者への情報の提供、共有に努める。	イ. 保護者アンケート結果で肯定的な意見80%を目標とする。	イ. 保護者アンケートは肯定的回答中学保護者73.9%高校保護者80.9%であった。(△) 中学校保護者は目標に達しなかったが、BLENDを活用するようになり、緊急連絡という限られた情報にとどまらず、欠席連絡や学級通信の配信などが行えるようになった。(◎)

2 校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う	(1) 留学の充実 (2) 海外研修の充実 (3) 実用英語技能検定(英検)の取り組み	ア. 全ての海外における学習が安全に行えるよう体制の整備、生徒の支援に取り組む。現地との連絡を密にして生徒を支援する。留学中も保護者交流会を定期的実施し、保護者の安心に繋げる。 イ. 1年間の留学を意義あるものにするために、親元を離れ海外で生活する決意を固め、具体的目標を持って留学に望むよう、留学説明会を開催する。 ア. 各種海外研修・修学旅行について、事前の準備から計画的に行い、内容の一層の充実に努める。 ア. 「英検取組み週間」を設定し、クラスの仲間とともに、より上級にチャレンジする。	ア. 生徒の安全にかかる重大事故0に努める。 イ. 決意を持って留学をスタートさせられるよう留学説明会を開催する。 ア. 海外修学旅行後の生徒アンケートにおいて満足度90%以上 ア. 中学卒業時に英検準2級以上70%、高校卒業時に2級以上40%の取得。国際科卒業生準1級取得率45%以上	ア. 復活したニュージーランドの長期留学も現地アドバイザーとの連携により安全に帰国させることが出来た。(○) 短期留学についてもアドバイザーのいるニュージーランドで実施できた。 イ. 留学説明会は5・8・11月と計3回実施できた。(○) ア. コロナ禍で実施できていなかった海外修学旅行を再開できた。実施後のアンケートによる生徒満足度は99.0%であった。(◎) ア. 英検について、中学卒業時の英検準2級以上取得は59.0%、高校卒業時の2級以上取得は55.6%また国際科卒業生準1級取得率33.9%と高校しか成果指標を達成できなかった。(○) しかし、1級取得者は22年連続して輩出。国が目標とする卒業時準2級以上取得者50%を大きく上回る81.9%であった。
3 自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する	(1) 授業の充実 (2) 学習意欲の喚起 (3) 夢を実現する進路指導	ア. 公開授業および各教科による研究授業・公開授業を実施し、授業力の向上を図る。 ア. 「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。 ア. 主体的に進路目標を定め、真に望む進路が実現できるよう支援に努める。 イ. 大学進学ゼミ・Jトレーニング・理数指導室。また、放課後学習システムとしてのメンター自習室を活用して学力向上を図り、希望進路を実現させるための支援を行う。	ア. 生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」肯定的回答70%以上 ア. 各クラスにおける定期テスト前学習会の実施状況。 ア. 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」が選択できる進路相談を、高校3年生で5回程度実施する。 イ. 生徒アンケート「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答75%以上。	ア. 「生徒一人ひとりを大切に丁寧でわかりやすい授業」に対する肯定的回答は生徒76.2%であった。(○) 昨年度と同指標だが、今後は個別評価の分かる授業アンケートに移行することも必要。 ア. 年5回の定期考査前には約1週間の学習取り組みも全クラスに定着し、参加率はほぼ100%であった。(○) ア. 進路ガイダンスを高1で2回、高2で4回実施した。高3においては、保護者対象を2回、生徒対象を5回実施した。生徒の進路実現の支援に努めた。(◎) イ. 講習、補習、放課後自習室は学力向上や進路実現に役立っているの肯定回答は、中学保護者72.5%高校保護者74.1%生徒78.6%であった。(◎) 大学進学ゼミ、Jトレーニング、学習メンター運営の自習室など校内で進路実現を可能にする環境は保護者にとっても高評価であった。